

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】

奈良市立都跡小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 2回生 苗代 昇妥

1. 実施日 2022年9月23日(水)

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修 4回生 佐藤 ころろ 幼年教育専修 4回生 井原 奈佑
英語教育専修 2回生 苗代 昇妥 特別支援教育専修 1回生 才田 優佳

4. 活動の概要

2022年9月23日に奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市立都跡小学校5年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、オリエンテーリングと野外炊飯の補助、キャンプファイヤーの準備、スタンプの実施などである。



キャンプファイヤーの様子

5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、次の二つのことを学んだ。

一つ目は、連携を取ることの大切さだ。オリエンテーリングや野外炊飯、キャンプファイヤーの各活動において、変更点が多々あった。しかし、密に連携を取ることで、想定外のことでも協力しながら適切に対応することができた。

二つ目は、適切に状況判断し対応することの重要性だ。キャンプファイヤーの際、予想以上に火が強かった。火の粉などで児童が怪我しないようにするための対応や、キャンプファイヤーの薪が倒れてしまったときの対応を話し合った。臨機応変に対応できたことで、安全に楽しくキャンプファイヤーを行うことができた。

私は、安全に活動するためには、適切な状況判断と密な連携が必要だと実感した。この学びを今後の活動に生かしていきたい。

(音楽教育専修 4回生 佐藤 ころろ)

私は、野外活動支援を通して、次の二つを学んだ。

一つ目は、ファイヤーキーパーの方法だ。私は、キャンプファイヤーでファイヤーキーパーを行ったが、ファイヤーキーパーは初めての経験だった。キャンプファイヤーの火の勢いが予想以上に強く、難しい状況だったが、火の様子とスタンプの進行状況を考慮しながら臨機応変に火の管理をすることができた。

二つ目は、雰囲気作りの重要性についてだ。キャンプファイヤーの進行中に場を盛り上げる声掛けをすることで、本気でキャンプファイヤーに取り組むことを「楽しい」と思える雰囲気作りができたと感じる。このような雰囲気作りを行うことで、子どもたちの団結力を高めることができ、キャンプファイ

ヤーを大いに盛り上げることができた。

今回の活動で学んだことをこれからに活かしていきたい。

(幼年教育専修 4回生 井原 奈佑)

私は、今回の野外活動支援を通して、次の二つのことを学んだ。

一つ目は、臨機応変に対応することの重要性である。今回の野外活動では、予定の変更が多くあった。その度に、周りとの連携を取りながら、対応したことで安全に活動を進めることができた。児童にとって有意義な活動を安全に行ってもらうためには、事前準備と臨機応変な対応の二つが欠かせないと分かった。

二つ目は、スタンプの際に、率先して声掛けをする大切さである。スタンプの最中に、場を盛り上げるための声掛けをするかどうかによって、児童の声の大きさや盛り上がりには大きな差があった。自らが率先して声掛けをすることで、全体の盛り上がりが大きく変化することが分かった。

今回の活動を通して学んだことを、今後に活かしていきたい。

(英語教育専修 2回生 苗代 昇妥)

今回の野外活動支援を通して私が学んだことは、野外活動が児童に与える影響の大きさだ。

私は、今回の野外活動支援は何度も参加させていただくなかの一回だと考えていた。しかし、児童にとっては一生に一度の思い出であり、一人ひとりの心に残り続けることを改めて感じた。このことを念頭に置いて、児童のことを第一に考えながら今後の活動に参加したい。また、野外活動は児童の思い出に残るだけでなく、仲間と協力したり、打ち解けたりできる意義深い活動だと分かった。

この学びを今後の活動に活かしていきたい。

(特別支援教育専修 1回生 才田 優佳)